

## 1. 評価結果概要表

### 【評価実施概要】

事業所番号	4070401379		
法人名	医療法人 北愛会		
事業所名	グループホーム さくらんぼ		
所在地 (電話番号)	北九州市小倉北区上富野3丁目17番1号 (電話) 093 - 541 - 0314		
評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4 - 6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成21年9月25日	評価確定日	平成21年11月5日

### 【情報提供票より】(平成21年9月7日事業所記入)

#### (1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 8 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	14 人	常勤 8 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 10.7人	

#### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2 階建ての 1階の一部と2階部分		

#### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	水光熱費(15,000円)
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 400,000 円 )	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,500 円		

#### (4) 利用者の概要 (9月7日現在)

利用者人数	9 名	男性	名	女性	9 名
要介護1	1 名	要介護2	5 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低 72 歳	最高 95 歳		

#### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	新門司病院・保利歯科・合馬内科クリニック
---------	----------------------

### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム「さくらんぼ」は、閑静な住宅街(桜丘)に位置しており、開設して8年目を迎えている。さくらんぼの木のある広い中庭には、花木や芝生、菜園による四季折々の風景があり、入居者の方々にとって格別の散歩コースとなっている。管理者・職員は、理念の実践に努め、入居者本位の姿勢でさりげなく寄り添い、日々の暮らしが豊かなものになるよう支援しており、その成果は入居者の方々の穏やかな姿に反映されている。健康管理や緊急時の対応についても、医師である運営者を中心として、ホーム職員や隣接する施設の専門職(看護師・OT・PT・管理栄養士等)との連携により、充実した体制が構築されており、本人・家族の安心の源となっている。一人ひとりにあわせた、心地良い時間の流れを大切にしながら、日々のケアに取り組んでいきたいという管理者の思いが、とても印象的であった。

### 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	家族や地域との連携については今後も継続して取り組み、更に充実するように働きかけを行なう方針としている。また、生活環境の整備(フローリング・引き戸への改修等)に取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	新しいスタッフにも評価の意義・目的を充分説明し、全職員で自己評価作成に取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は、多彩なメンバー構成により開催されており、入居者の方々の状況をわかりやすく報告し、認知症への理解を育む機会ともなっている。外部評価についても、評価結果をもとに意見交換が行われている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
	入居時には、公的機関の相談窓口やご意見箱について説明している。年2回の家族会や運営推進会議の機会を活用して、意見等の表出に努めている。意見や要望がある場合には、運営者・職員全員で検討・改善に取り組み、迅速な対応に努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	法人として町内会に加入しており、地域行事・活動に入居者とともに積極的に参加している。事業所の行事に地域からの参加もあり、近隣の幼稚園児や小学生の来訪は、入居者の方々にとって一番の笑顔となっている。また地域に向けて、認知症ケアに関する情報発信を行なっている。

## 2. 評価結果(詳細)

(   部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念	開設時に、地域密着型サービスとしての意義を踏まえた理念が作成されており、「家庭的な雰囲気の中で 安らかにその人らしい生活ができるように支援します。」「地域ニーズに応え利用者から愛される施設を目指します。」「利用者の尊厳を守ります。」という事業所独自の理念を掲げている。		
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
2	2	理念の共有と日々の取り組み	理念は施設内の目に付きやすい場所に掲示しており、ケア会議やスタッフ会議において、また日々の入居者の方々と関わりの中で、理念にそったケアとなるよう確認しながら取り組んでいる。理念を入居者一人ひとりのケアマネジメントの基本とし、その実践に努めている。		
		管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
3	5	地域とのつきあい	法人として町内会に加入しており、地域行事・活動に入居者とともに積極的に参加している。事業所の行事に地域からの参加もあり、近隣の幼稚園児や小学生の来訪は、入居者の方々にとって一番の笑顔となっている。また地域に向けて、認知症ケアに関する情報発信を行なっている。		
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用	自己評価作成にあたり評価の意義や目的を確認し、全職員で取り組んでいる。評価の機会を、日々のケアの振り返りや確認の機会として活かしている。評価結果については運営推進会議にて報告し、意見や助言を得ている。		
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
5	8	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議は、多彩なメンバー構成により開催されており、入居者の方々の状況をわかりやすく報告し、認知症への理解を育む機会ともなっている。外部評価についても、評価結果をもとに意見交換が行われている。		
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			

## グループホーム さくらんぼ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携	市町村担当職員からは、運営等について助言や説明を受けている。行政主催の研修参加や、グループホーム協議会等において、意見交換や情報の共有に努めている。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用	日常生活自立支援事業や成年後見制度について、必要となった場合に活用できるように積極的に研修に参加し、復命研修を行なう事で職員全員に周知徹底が図られている。また必要時には、法人全体でのサポート体制を整えている。		
		管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。			
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告	ホーム便りに写真やコメントを添えて、毎月送付している。3ヶ月毎に、健康状態と介護計画の実施状況を詳細にまとめた「3ヶ月状況報告書」を発行している。充実した報告となっているが、家族と対面してのコミュニケーションを大切にしており、来訪時の報告を重視している。		
		事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
9	15	運営に関する家族等意見の反映	入居時には、公的機関の相談窓口やご意見箱について説明している。年2回の家族会や運営推進会議の機会を活用して、意見等の表出に努めている。意見や要望がある場合には、運営者・職員全員で検討・改善に取り組み、迅速な対応に努めている。		
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
10	18	職員の異動等による影響への配慮	法人内での異動は最小限となるよう努めている。働きやすく、やりがいの持てる職場環境づくりに努めており、職員の定着が図られている。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重	職員の採用にあたっては、年齢や性別を理由とする排除は行っていない。職員個々の能力が発揮できるように、自ら考え学び行動することにより、その能力を引き出せるようサポートしている。研修参加や資格取得に関しても、積極的な支援が行われている。		
		法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。			

## グループホーム さくらんぼ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	法人全体として、人権教育に積極的に取り組んでいる。高齢者虐待や身体拘束についても学ぶ機会を確保しており、会議や日々のケアの中でも人権について話し合う機会を持ち、啓発活動が行なわれている。また職員のストレスケアに配慮された職場環境づくりに取り組んでいる。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	外部研修参加や資格取得に関して、シフト調整や研修費用・交通費をサポートする体制が整備されている。また復命研修により情報の共有が図られている。日々のケアの中での教育も大切にしており、経験豊かな職員により、個々の特性にあわせた育成がなされている。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	グループホーム協議会に加入しており、管理者は昨年まで役員を務めていた。研修・勉強会・イベント・懇親会等へ積極的に参加し、他の事業所の職員との意見交換や情報共有により、サービスの向上や自己研鑽の場となっている。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	本人・家族との面談や訪問・見学を重ね、情報を得ながら信頼関係を築くことを大切にしている。段階的にホームの雰囲気慣れてもらい、安心して入居できるよう柔軟な支援が行なわれている。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	日々の暮らしの中で、同じ時間を共に過ごす中で、年長者である入居者の方々から、生活の知恵や昔ながらの調理法等、教えてもらう場面も多い。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			



## グループホーム さくらんぼ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	必ず本人の意向を確認しながら支援している。また表情や行動などから、その真意を受け止めるよう心がけている。家族来訪時には再確認しながら、ケア会議での情報共有を図っている。センター方式のアセスメントを活用し積み重ねながら、一人ひとりの全体像の把握に努めている。		
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	本人・家族の意向を大切にしながら、入居者一人ひとりの担当者を中心として、職員全員で介護計画を作成している。充実したアセスメントを活用して、本人本位の計画となるよう努めている。		
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	日々の詳細かつ丁寧な記録をもとにして、毎月のケア会議の中で評価が行われている。3ヶ月に1回、または状況の変化がある場合等には、随時見直しが行われている。		
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	運営者が認知症専門医であり、また併設施設の専門職(看護師・PT・OT・栄養士等)との連携により、日々の健康管理に柔軟な支援が行われている。		
		本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	本人・家族の意向によるかかりつけ医を尊重している。運営者が認知症の専門医であり、訪問診療の際には入居者との対話を大切にしながら医療の提供がなされている。医療連携体制の充実があり、本人・家族の安心につながっている。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

## グループホーム さくらんぼ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	ホームとして、医療連携体制の中で「重度化した場合における対応に関わる指針」及び「看取りに関わる指針」を示し、看取り介護についての同意を得ている。本人・家族の意向を大切にしながら、関係者で方針を共有している。今後の状況の変化にも対応できるよう、積極的に研修に参加している。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	理念として一人ひとりの尊厳を守ることを掲げており、日々の暮らしの中で、入居者の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底が図られている。法人としての研修実施、また管理者による助言・指導により、職員全体の意識の向上を図っている。		
24	54	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	おおまかな一日のスケジュールはあるが、入居者の方々のその日その時の希望や状況に柔軟に対応している。一人ひとりに流れる時間の感覚は人それぞれであり、個々にあった心地良い時間経過を大切にしながら、日々のケアに取り組んでいきたいと考えている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	近隣の「魚屋さん」や「八百屋さん」から新鮮な旬の食材を仕入れ、料理の得意な職員の配置により、その技が発揮されている。入居者の方々にとって、食事は一日の大切な活動の場と考え、食事の準備や後片付けに力を発揮してもらっている。		
26	59	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	体調等に配慮しながら、入浴が楽しみの1つとなるように時間を制限せず、気分や生活習慣にあわせた支援に努めている。		

## グループホーム さくらんぼ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	毎日の生活がその人らしいものであるよう、センター方式のアセスメントを活用し、生活の中でできる事を「24時間手順書」に具体的に記入し、生活場面での自立支援が活性化につながるよう取り組んでいる。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	広い中庭の散歩は日常的に行なわれており、時には隣接する同法人の施設へ出向くこともある。家族の協力も得ながら、個別の外出や買い物を楽しんだり、外出レクレーションにも積極的に取り組んでいる。		
		事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	国道にも近く、安全確保のために正面玄関は施錠している。中庭からも戸外へ出入りすることもできるため、中庭に面した扉を日中は開放している。プライバシーに配慮しながら、入居者の状況の把握や見守りを徹底し、さりげなく寄り添っている。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	併設する同法人施設との連携により、防災委員会を設置しており、年2回の合同避難訓練を実施している。運営推進会議等での働きかけにより、桜丘自治会の協力を得て、地域住民との合同避難訓練が実施予定である。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	法人内の管理栄養士の協力により、バランス等に配慮された献立が作成されており、買い物から調理をホームで行なっている。食事・水分摂取量や排泄状況を記録し、月1回の体重測定を行なっている。また定期的なアルブミン測定を行い、健康管理に役立てている。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

グループホーム さくらんぼ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	リビングからは広い中庭にある四季折々の草木や畑の野菜を眺める事ができる。毎月、季節をテーマとしたポスターを入居者の方々と作製しリビングの壁に飾っており、9月は真っ赤な彼岸花が季節感を演出していた。各所に配置されているソファやベンチにより、くつろげる空間が確保されている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	和室・洋室の2タイプの部屋が用意されており、各部屋には洗面台・クローゼットが設置されている。馴染みの家具等が持ち込まれており、また清潔感を感じる。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			